

日 時 **6月2日(土)～3日(日)1泊2日**
費 用 **35000円**
宿 泊 **巖美溪温泉 いつくし園**
 TEL 0191-29-2101
 岩手県一関市巖美町南滝の上15

6月2日

集合7時～ 茅ヶ崎市民文化会館前発(貸切バス・約8時間)

⇒休憩(海老名・蓮田・黒磯)⇒昼食(安達太良SA個人負担)

⇒休憩(長者原)

⇒16時 毛越寺約1h

毛越寺は慈覚大師円仁が開山し、藤原氏二代基衡(もとひら)から三代秀衡(ひでひら)の時代に多くの伽藍が造営されました。往時には堂塔40僧坊500を数え、中尊寺をしのぐほどの規模と華麗さであったといわれています。奥州藤原氏滅亡後、度重なる災禍に遭いすべての建物が焼失したが、現在大泉が池を中心とする浄土庭園と平安時代の伽藍遺構がほぼ完全な状態で保存されており、国の特別史跡・特別名勝の二重の指定を受けています。

平成元年、平安様式の新本堂が建立されました

⇒宿泊地 いつくし園(18:30夕食)

6月3日 8時30分ホテル発

⇒9時 中尊寺金色堂(ガイドつき)

中尊寺は嘉祥3年(850)、比叡山延暦寺の高僧慈覚大師円仁(じかくだ いしえんにん)によって開かれ、12世紀のはじめに奥州藤原氏初代清衡公によって大規模な堂塔の造営が行われました。

清衡公の中尊寺建立の趣旨は、11世紀後半に東北地方で続いた戦乱（前九年・後三年合戦）で亡くなった生きとし生けるものの霊を敵味方の別なく慰め、「みちのく」といわれ辺境とされた東北地方に、仏国土（仏の教えによる平和な理想社会）を建設する、というものでした。それは戦乱で父や妻子を失い、骨肉の争いを余儀なくされた清衡公の非戦の決意でもありました。

清衡公は長治2年（1105）より中尊寺の造立に着手します。まず東北地方の中心にあたる関山に一基の塔を建て、境内の中央に釈迦・多宝如来の並座する多宝寺を建立し、続いて百余体の釈迦如来を安置した釈迦堂を建立します。この伽藍（がらん）建立は『法華経』の中に説かれる有名な一場面を具体的に表現したものでした。

⇒ 葦の芽星谷幼稚園車窓より

茶道のポータル普及に40年近く携わってこられた山口香悦副会長よりのご紹介です。

⇒ 13時 愛宕山地福寺訪問 昼食・音楽講話とご住職のおはなし

臨済宗妙心寺派 天井近くまで波が押し寄せた本堂は修復され、地域のよりどころとしての活動も盛んです。今年3月には大法要が営まれ、ご住職は震災以前より音楽と合わせた法話を行っていらっしゃいます。

⇒ 16時 南三陸町 防災放送塔・南三陸さんさん商店街訪問

防災対策庁舎では多くの方が命を落とされました。避難が放送され続けたことは記憶に鮮明です。

また仮コンテナで営業する復興商店街に立ち寄ります

⇒ 帰途 休憩4か所 ⇒ 午前1時頃 茅ヶ崎元町着

緊急連絡先 TEL 080-6729-8008(担当 長谷川由美)